脱炭素
インフォメーション
あきたOffice

脱炭素診断 x 脱炭素経営支援

あきた市地球温暖化防止活動推進センター
（一般社団法人 あきた地球環境会議）

脱炭素インフォメーションあきたOffice

本事業は、地域で持続可能な脱炭素社会を実現する情報基盤の設置とネットワーク構築により、脱炭素診断と中長期ESG経営ロードマップ及び社員人材育成等を通して、中小規模事業者とそこに働くスタッフが共に脱炭素に移行する一歩を踏み出し実装・定着することを目指します。

OUR PROJECT

「あきた脱炭素診断」

実態調査を行い、エネルギーの使用の合理化が図られる設備・機器の運用改善、改修、導入について提案

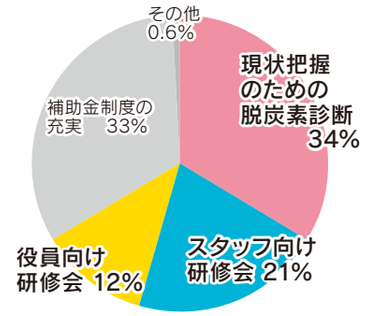
＋

「脱炭素経営支援」

診断内容の説明・相談
ESG経営ロードマップの提案
社員研修メニューの提供

P5-18 脱炭素診断実施事例

脱炭素経営のために事業者が必要とする取組



本事業で実施した「脱炭素経営に関するアンケート調査」結果より

これらのプロジェクトを通じて、秋田の事業者が求める脱炭素経営のための取組をサポートいたします

OUR PROJECT 01 あきた脱炭素診断

中小企業者等を対象に、省エネ専門家（エネルギー管理士等）が事業者を訪問し、脱炭素診断を行います。

事業所の主要設備及び制御設備等の稼働状況並びにエネルギー使用量について実態調査を行い、それらの分析結果に基づき、エネルギーの使用の合理化が図られる設備・機器の運用改善、改修、導入について提案をいたします。

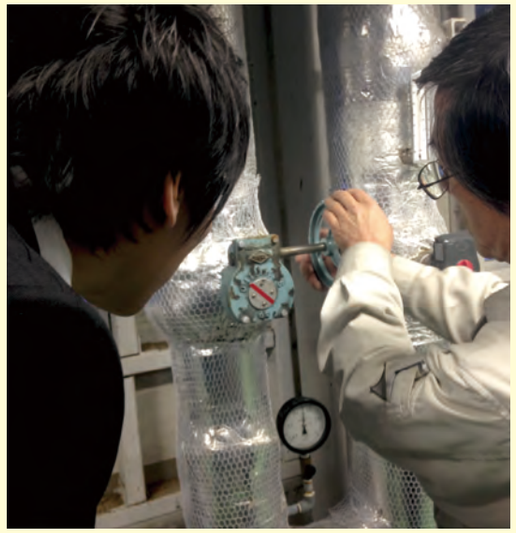
❶申し込み
▼
❷事前ヒアリング
▼
❸現地調査
▼
❹診断結果の送付

①所定の申込書に必要事項を記入し、メールまたはFAXにて申込

②受付完了後、診断実施日等について確認

③脱炭素診断の実施（1時間～半日）

④診断結果の送付後、診断士が結果内容について説明
利用可能な補助金等の情報提供



OUR PROJECT

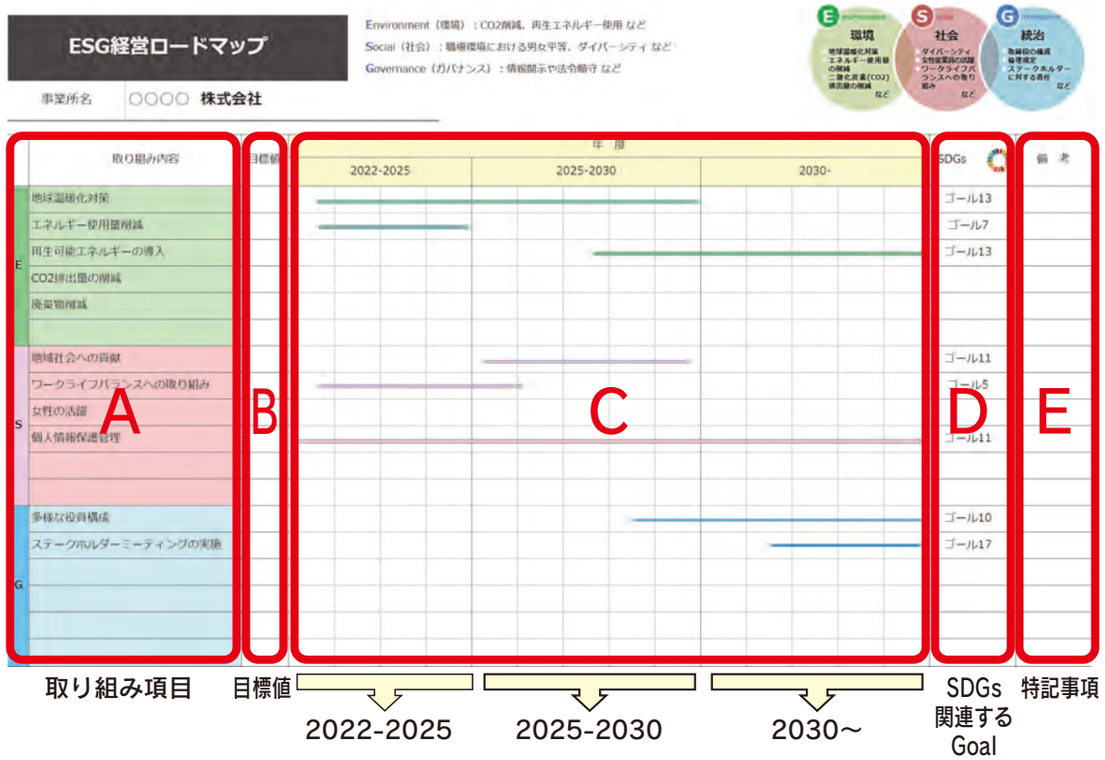
02 脱炭素経営支援

ESG経営ロードマップの提案と社員研修のサポートを行います。

ESG経営ロードマップ

中長期実行計画の提案は、 **企業ビジョンの見える化** を実現します。
CO_2とコスト削減、生産性の向上、社会貢献等を目的としたオーダーメイドの「**ESG経営ロードマップ**」をご提供。

※ESGとは、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）情報を考慮した投融資行動です。環境省では2019年「ESG地域金融先行事例調査に関する検討会」を立ち上げ、地域金融への導入を目指していることから、今後の企業経営では欠かせない視点とされています。



達成までのスケジュール

社員研修

脱炭素社員研修では、企業が一丸となって脱炭素へ取り組む素地形成を図ります。

講義型研修

体験型研修

◆期待できるメリット
1）社員の学び・スキルアップ：職場での実践によるスキル定着
2）企業一体感・相互理解深化：企業理念や方針の共有
3）脱炭素運営理解と行動変容：自主的に取り組む人材が育成される

「あきた脱炭素診断」実施結果一覧

脱炭素インフォメーションあきたOfficeの事業として実施した「あきた脱炭素診断」の結果を紹介します。

診断結果は次ページ以降を参照ください。

※1　原油換算（kL/年）

事業者	提案内容	エネルギー種別	エネルギー削減量※1	削減金額〈千円/年〉	CO_2削減量〈t-CO_2/年〉
01	暖房を電気エアコン優先で使用	灯油電力差し引き	1.00	109	3.47
	デマンド監視装置の導入	電力	―	202	―
	電気エアコンの更新	電力	0.22	24	0.40
	外灯のLED化	電力	0.54	60	1.00
02	暖房を電気エアコン優先で使用	灯油電力差し引き	0.29	33	0.98
	トイレ凍結防止ヒータの設定温度緩和	電力	0.90	96	1.66
	デマンド監視装置の導入	電力	―	135	―
	電気エアコンの更新	電力	0.75	81	1.39
	変圧器の更新	電力	1.88	201	3.47
03	暖房を電気エアコン優先で使用	灯油電力差し引き	0.14	16	0.56
	製品倉庫のエアコンの更新	電力	0.50	55	0.93
	事務室照明のLED化	電力	0.32	34	0.58
	研究室のLED化	電力	0.12	13	0.22
04	事務所の暖房を電気エアコン優先で使用	灯油電力差し引き	0.18	14	0.63
	事務所エアコンの更新	電力	0.06	9	0.11
	工場エアコンの更新	電力	0.09	12	0.16
	プリンター室照明のLED化	電力	0.10	14	0.19
	溶接工場照明のLED化	電力	0.11	16	0.21
	溶接室の温風ヒータを電気エアコンに更新	灯油電力差し引き	0.10	8	0.34
	コンプレッサの更新	電力	0.02	8	0.04
05	エアコン室内機のフィルター清掃（1F）	電力	0.04	7	0.08
	エアコンの更新（2F）	電力	0.16	27	0.29
	照明のLED化	電力	0.14	18	0.25
	避難誘導灯のLED化	電力	0.05	7	0.09
06	冷蔵ショーケースの更新	電力	0.21	25	0.39
	蛍光灯のLED化	電力	0.15	21	0.28
	スポットライトのLED化	電力	2.04	277	3.77
07	照明のLED化	電力	0.12	16	0.23
	水道直結化による送水ポンプの廃止	電力	0.82	81	1.52
08	空調室内機のフィルター清掃（本館）	都市ガス	0.36	39	0.71
	空調室内機のフィルター清掃（分館）	電力	0.10	14	0.19
	トイレ凍結防止ヒータの設定温度緩和（本館）	電力	0.34	44	0.62
	電気エアコンの更新（分館）	電力	0.17	23	0.31
	ガスヒートポンプエアコンの更新（本館）	都市ガス電力差し引き	1.19	−10	2.43
09	給湯ボイラの更新	灯油	0.60	66	1.57
	1階照明のLED化	電力	0.26	41	0.48
	駐車場、風除室照明のLED化	電力	0.06	9	0.11
10	待合室にサーキュレーターの設置	電力	0.04	6.3	0.08
	エアコンの更新（休憩室）	電力	0.02	3.1	0.04
	エアコンの更新（診察室1）	電力	0.02	2.2	0.03
	エアコンの更新（診察室2）	電力	0.24	33.4	0.44
	融雪ボイラの更新	灯油	0.02	1.5	0.04
	給湯ボイラの更新	灯油	0.02	2.4	0.06
	照明のLED化	電力	0.62	87.9	1.15
11	ボイラの燃焼空気比調整	A重油	2.15	206	5.76
	暖房を電気エアコン優先で使用	A重油電力差し引き	2.51	230	10.11
	トイレ凍結防止ヒータの設定温度緩和	電力	1.57	155	2.90
	厨房の冷凍冷蔵庫・製氷機のフィルター清掃	電力	0.05	5	0.10
	デマンド監視装置の導入	電力	―	169	―
	蒸気・給湯配管系の保温	重油	1.82	175	4.89
12	ボイラの燃焼空気比調整	灯油	2.49	282	6.53
	ボイラ暖房及び床暖の設定温度低減	灯油	7.57	861	19.92
	トイレ凍結防止ヒータの設定温度緩和	電力	0.51	54	0.94
	浄化槽曝気ブロワのタイマー制御	電力	1.69	180	3.13
	デマンド監視装置の導入	電力	―	169	―
	ポンプのインバータ制御	電力	2.27	242	4.20
	温水配管及び給湯系の保温	灯油	0.80	91	2.10
	変圧器の更新	電力	0.80	85	1.47
	照明のLED化	電力	1.18	126	2.19

CASE 01

業種区分 製造業　従業員数 40名

診断対象施設の用途 工場

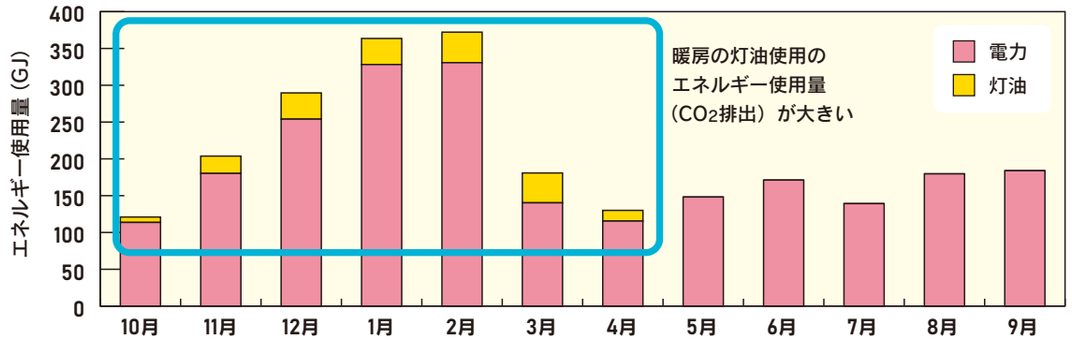
年間エネルギー使用状況 66.72kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額〈千円/年〉	エネルギー削減効果 原油換算〈kL/年〉	CO_2削減量〈t-CO_2/年〉
①	運用管理等の改善	暖房を電気エアコン優先で使用	灯油電力差し引き	109	1.00	3.47
②	費用・投資が伴う提案	デマンド監視装置の導入	電力	202	—	—
③	費用・投資が伴う提案	電気エアコンの更新	電力	24	0.22	0.40
④	費用・投資が伴う提案	外灯のLED化	電力	60	0.54	1.00
合計				395	1.76	4.87

月別電力・燃料合計使用量推移



提案①の詳細

■現状

・事務所は、夏の冷房は電気エアコン、冬の暖房は灯油ストーブを使用

■省エネ施策

・冬季の暖房を電気エアコン優先で使用し、灯油ストーブは補助的に使用する

■CO_2削減効果

・灯油ストーブの補助的使用 → 5.47t-CO_2/年削減

・電気エアコン優先使用 → 2.0t-CO_2/年増加

合計 3.47 t-CO_2/年削減

CASE 02

業種区分 製造業　従業員数 50名

診断対象施設の用途 工場

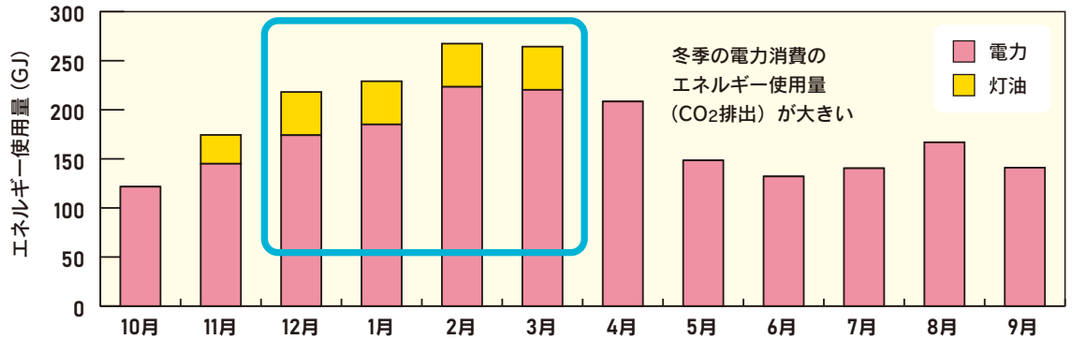
年間エネルギー使用状況 57.08kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額〈千円/年〉	エネルギー削減効果 原油換算〈kL/年〉	CO_2削減量〈t-CO_2/年〉
①	運用管理等の改善	暖房を電気エアコン優先で使用	灯油電力差し引き	33	0.29	0.98
②	運用管理等の改善	トイレ凍結防止ヒータの設定温度緩和	電力	96	0.90	1.66
③	費用・投資が伴う提案	デマンド監視装置の導入	電力	135	—	—
④	費用・投資が伴う提案	電気エアコンの更新	電力	81	0.75	1.39
⑤	費用・投資が伴う提案	変圧器の更新	電力	201	1.88	3.47
合計				546	3.82	7.50

月別電力・燃料合計使用量推移



提案②の詳細

■現状

・工場内のトイレには凍結防止ヒータが設置されている

・水廻り系の凍結防止が目的だが設定温度が15℃と高い

■省エネ施策

・凍結防止ヒータ設定温度を15℃から5℃に下げる

■CO_2削減効果

・凍結防止ヒータ設定温度を下げる → 1.66t-CO_2/年削減

合計 1.66 t-CO_2/年削減

CASE 03

業種区分 製造業　従業員数 4名

診断対象施設の用途 工場

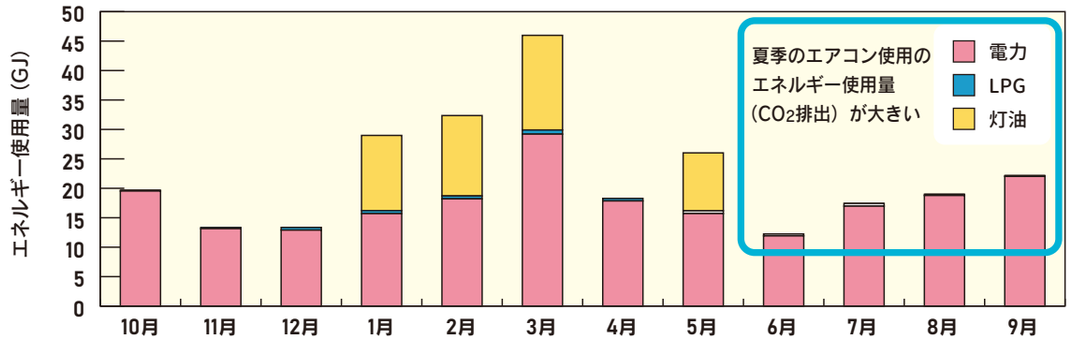
年間エネルギー使用状況 6.94kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額〈千円/年〉	エネルギー削減効果 原油換算〈kL/年〉	CO_2削減量〈t-CO_2/年〉
①	運用管理等の改善	暖房を電気エアコン優先で使用	灯油電力差し引き	16	0.14	0.56
②		製品倉庫のエアコン更新	電力	55	0.50	0.93
③	費用・投資が伴う提案	事務室照明のLED化	電力	34	0.32	0.58
④		研究室のLED化	電力	13	0.12	0.22
合計				118	1.08	2.29

月別電力・燃料合計使用量推移



提案② の詳細

■現状

・製品倉庫で使用しているエアコンは型式が古く老朽化が進んでいるため消費電力が高い

■省エネ施策

・製品倉庫のエアコンを最新式に更新する
消費電力：現状エアコン6.8kW → 更新エアコン4.92kW

■CO_2削減効果

・製品倉庫のエアコン更新 → 0.93t-CO_2/年削減

合計 0.93 t-CO_2/年削減

CASE 04

業種区分 製造業、卸売業、小売業

従業員数 4名　診断対象施設の用途 工場

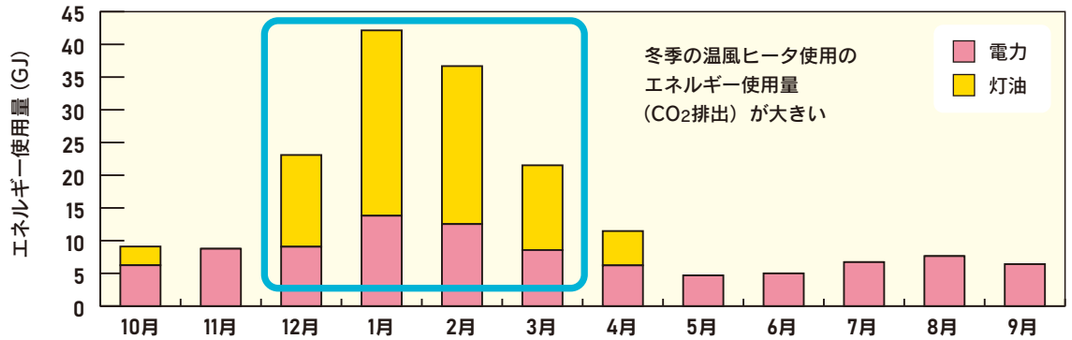
年間エネルギー使用状況 4.73kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額〈千円/年〉	エネルギー削減効果 原油換算〈kL/年〉	CO_2削減量〈t-CO_2/年〉
①	運用管理等の改善	事務所の暖房を電気エアコン優先で使用	灯油電力差し引き	14	0.18	0.63
②	費用・投資が伴う提案	事務所エアコンの更新	電力	9	0.06	0.11
③		工場エアコンの更新	電力	12	0.09	0.16
④		プリンター室照明のLED化	電力	14	0.10	0.19
⑤		溶接工場照明のLED化	電力	16	0.11	0.21
⑥		溶接室の温風ヒータを電気エアコンに更新	灯油電力差し引き	8	0.10	0.34
⑦		コンプレッサの更新	電力	8	0.02	0.04
合計				81	0.66	1.68

月別電力・燃料合計使用量推移



提案⑥ の詳細

■現状

・冬期間に室温維持のため灯油を燃料とした温風ヒータが使用されている

■省エネ施策

・灯油を使用した温風ヒータの代わりに電気エアコンを使用する

■CO_2削減効果

・灯油の温風ヒータの使用を止める → 0.52t-CO_2/年削減
・代わりに電気エアコンを使用する → 0.18t-CO_2/年増加

合計 0.34 t-CO_2/年削減

CASE 05

業種区分 小売業　従業員数 17名

診断対象施設の用途 店舗

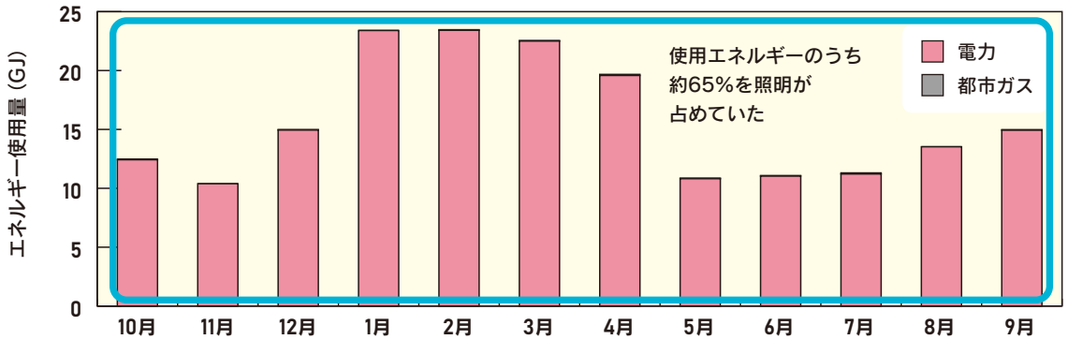
年間エネルギー使用状況 4.87kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額〈千円/年〉	エネルギー削減効果 原油換算〈kL/年〉	CO_2削減量〈t-CO_2/年〉
①	運用管理等の改善	エアコン室内機のフィルター清掃（1F）	電力	7	0.04	0.08
②		エアコンの更新（2F）	電力	27	0.16	0.29
③	費用・投資が伴う提案	照明のLED化	電力	18	0.14	0.25
④		避難誘導灯のLED化	電力	7	0.05	0.09
合計				59	0.39	0.71

月別電力・燃料合計使用量推移



提案③の詳細

■現状

・照明は蛍光灯が使用され、LEDと比較すると消費電力は多い

■省エネ施策

・蛍光灯をLEDに更新し消費電力を削減する

■CO_2削減効果

・蛍光灯をLEDに更新する → 0.25t-CO_2/年削減

合計 0.25 t-CO_2/年削減

CASE 06

業種区分 小売業　従業員数 5名

診断対象施設の用途 市場

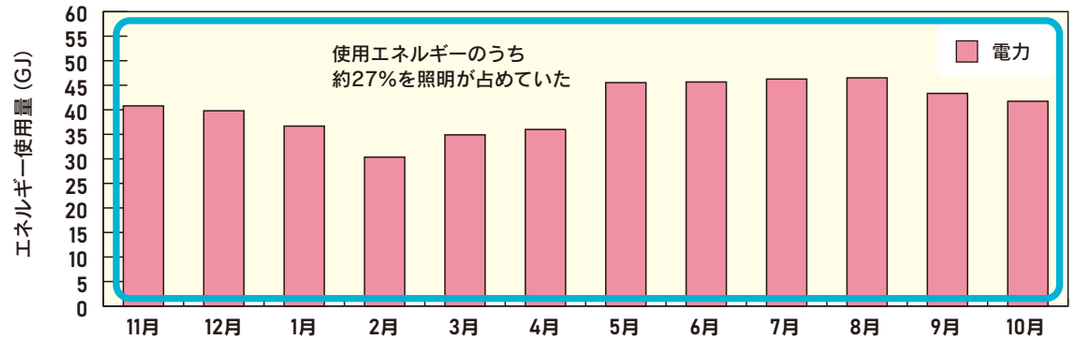
年間エネルギー使用状況 12.58kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額〈千円/年〉	エネルギー削減効果 原油換算〈kL/年〉	CO_2削減量〈t-CO_2/年〉
①		冷蔵ショーケースの更新	電力	25	0.21	0.39
②	費用・投資が伴う提案	蛍光灯のLED化	電力	21	0.15	0.28
③		スポットライトのLED化	電力	277	2.04	3.77
合計				323	2.40	4.44

月別電力・燃料合計使用量推移



提案③の詳細

■現状

・スポットライトも一部LED化されているが、主に白熱ランプが使用されている

■省エネ施策

・白熱ランプをLEDに更新する

■CO_2削減効果

・スポットライトのLED化 → 3.77t-CO_2/年削減

合計 3.77 t-CO_2/年削減

CASE 07

業種区分 不動産業　従業員数 2名

診断対象施設の用途 集合住宅

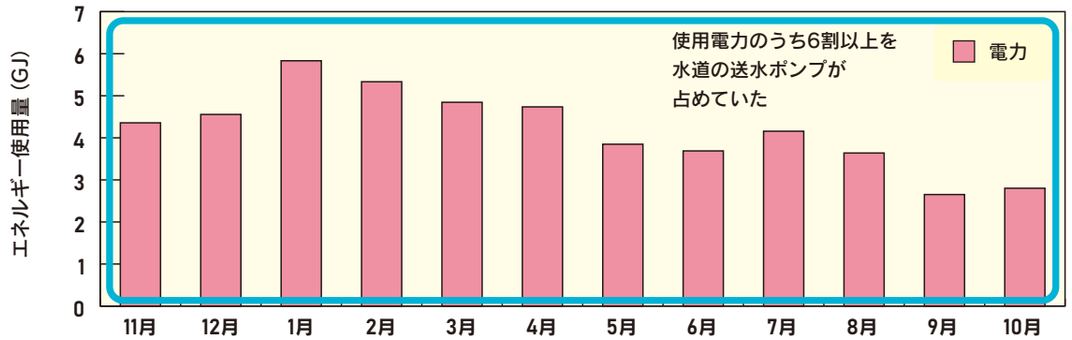
年間エネルギー使用状況 1.30kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額(千円/年)	エネルギー削減効果 原油換算(kL/年)	CO_2削減量 (t-CO_2/年)
①	費用・投資が伴う提案	照明のLED化	電力	16	0.12	0.23
②		水道直結化による送水ポンプの廃止	電力	81	0.82	1.52
合計				97	0.94	1.75

月別電力・燃料合計使用量推移



提案② の詳細

■現状

・各部屋への水道は、地上の貯水槽から送水ポンプで供給されている

■省エネ施策

・貯水槽＋送水ポンプでの送水から、水道直結に変更することで、送水ポンプを廃止する

・送水ポンプ稼働分の電力量が削減される

■CO_2削減効果

・送水ポンプの廃止 → 1.52t-CO_2/年削減

合計 1.52 t-CO_2/年削減

CASE 08

業種区分 医療、福祉　従業員数 31名

診断対象施設の用途 こども園

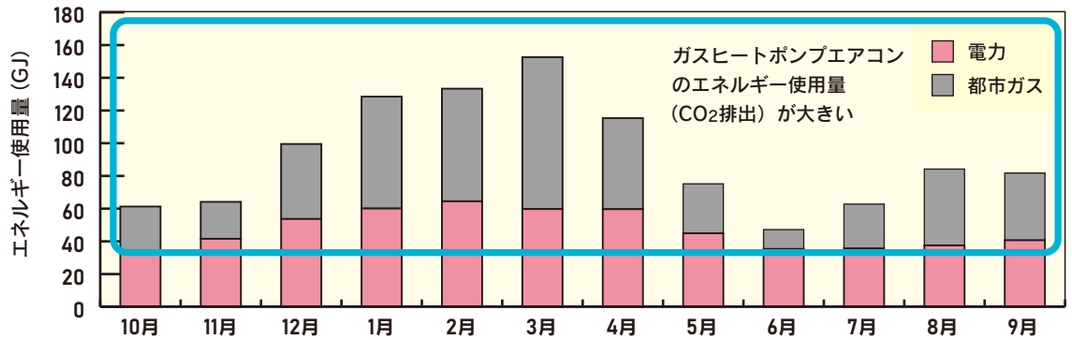
年間エネルギー使用状況 28.22kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額(千円/年)	エネルギー削減効果 原油換算(kL/年)	CO_2削減量 (t-CO_2/年)
①		空調室内機のフィルター清掃（本館）	都市ガス	39	0.36	0.71
②	運用管理等の改善	空調室内機のフィルター清掃（分館）	電力	14	0.10	0.19
③		トイレ凍結防止ヒータの設定温度緩和（本館）	電力	44	0.34	0.62
④		電気エアコンの更新（分館）	電力	23	0.17	0.31
⑤	費用・投資が伴う提案	ガスヒートポンプエアコンの更新（本館）	都市ガス電力差し引き	−10	1.19	2.43
合計				110	2.16	4.26

月別電力・燃料合計使用量推移



提案① の詳細

■現状

・ガスヒートポンプエアコン室内機のフィルターに目詰まりが見られる

■省エネ施策

・室内機のフィルター清掃を行い、ガス消費量を削減する

■CO_2削減効果

・空調室内機のフィルター清掃 → 0.71t-CO_2/年削減

合計 0.71 t-CO_2/年削減

CASE 09

業種区分 医療、福祉　従業員数 14名

診断対象施設の用途 通所介護

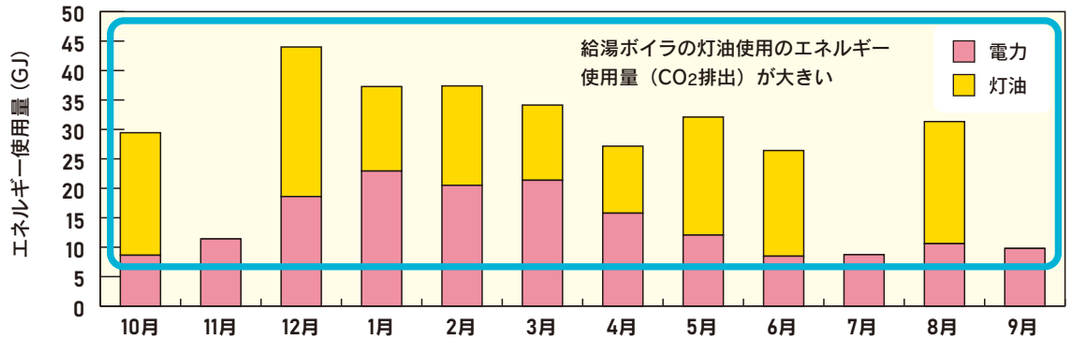
年間エネルギー使用状況 8.49kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額(千円/年)	エネルギー削減効果 原油換算(kL/年)	CO_2削減量 (t-CO_2/年)
①		給湯ボイラの更新	灯油	66	0.60	1.57
②	費用・投資が伴う提案	1階照明のLED化	電力	41	0.26	0.48
③		駐車場、風除室照明のLED化	電力	9	0.06	0.11
合計				116	0.92	2.16

月別電力・燃料合計使用量推移



提案① の詳細

■現状

・給湯ボイラは設置後18年が経過し老朽化が進んでいるため灯油消費量が多い

■省エネ施策

・給湯ボイラを省エネ性能の高い高効率機器に更新する
熱効率：現状給湯ボイラ82.1%（灯油）→
更新給湯ボイラ96.0%（灯油）

■CO_2削減効果

・給湯ボイラの更新 → 1.57t-CO_2/年削減

合計 1.57 t-CO_2/年削減

CASE 10

業種区分 医療、福祉　従業員数 15名

診断対象施設の用途 医療施設

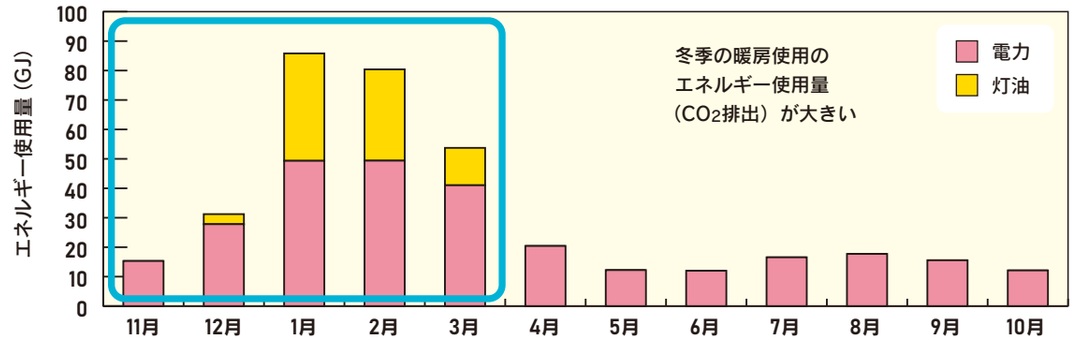
年間エネルギー使用状況 8.32kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額(千円/年)	エネルギー削減効果 原油換算(kL/年)	CO_2削減量 (t-CO_2/年)
①	運用管理等の改善	待合室にサーキュレーターの設置	電力	6.3	0.04	0.08
②	費用・投資が伴う提案	エアコンの更新（休憩室）	電力	3.1	0.02	0.04
③		エアコンの更新（診察室1）	電力	2.2	0.02	0.03
④		エアコンの更新（診察室2）	電力	33.4	0.24	0.44
⑤		融雪ボイラの更新	灯油	1.5	0.02	0.04
⑥		給湯ボイラの更新	灯油	2.4	0.02	0.06
⑦		照明のLED化	電力	87.9	0.62	1.15
合計				136.8	0.98	1.84

月別電力・燃料合計使用量推移



提案① の詳細

■現状

・待合室の暖房は電気エアコンを使用している
・天井が高いため熱気が上部にたまり、床周辺と比べて約5℃の温度差が生じている

■省エネ施策

・サーキュレーターを設置し、天井と床周辺の温度差を縮める

■CO_2削減効果

・サーキュレーターの設置 → 0.08t-CO_2/年削減

合計 0.08 t-CO_2/年削減

CASE 11

業種区分 医療、福祉　従業員数 70名

診断対象施設の用途 福祉施設

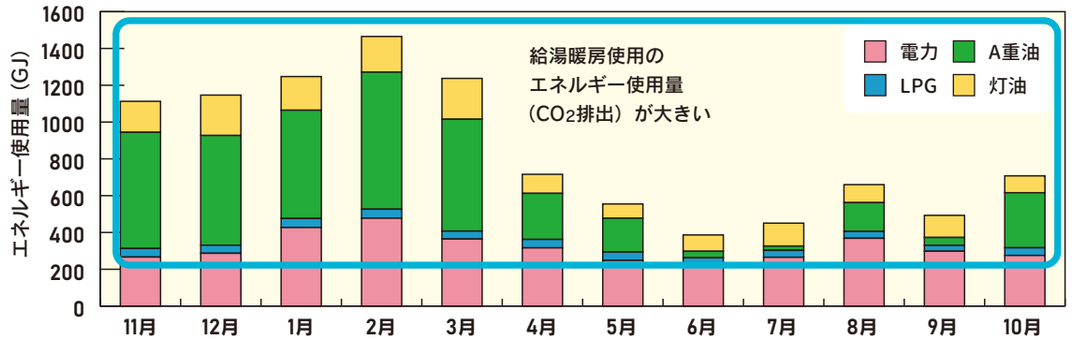
年間エネルギー使用状況 262.59kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額〈千円/年〉	原油換算〈kL/年〉	CO_2削減量〈t-CO_2/年〉
①		ボイラの燃焼空気比調整	A重油	206	2.15	5.76
②	運用管理等の改善	暖房を電気エアコン優先で使用	A重油電力差し引き	230	2.51	10.11
③		トイレ凍結防止ヒータの設定温度緩和	電力	155	1.57	2.90
④		厨房の冷凍冷蔵庫・製氷機のフィルター清掃	電力	5	0.05	0.10
⑤	費用・投資が伴う提案	デマンド監視装置の導入	電力	169	—	—
⑥		蒸気・給湯配管系の保温	重油	175	1.82	4.89
合計				940	8.10	23.76

月別電力・燃料合計使用量推移



提案①の詳細

■現状

・給湯及び暖房用のボイラが合計4台使用されている

・ボイラが燃焼時の空気量が多く、熱損失が増加していた

■省エネ施策

・燃焼時の供給空気量を適正にする

■CO_2削減効果

・ボイラの燃焼空気比調整 → 5.76t-CO_2/年削減

合計 5.76 t-CO_2/年削減

CASE 12

業種区分 医療、福祉　従業員数 59名

診断対象施設の用途 福祉施設

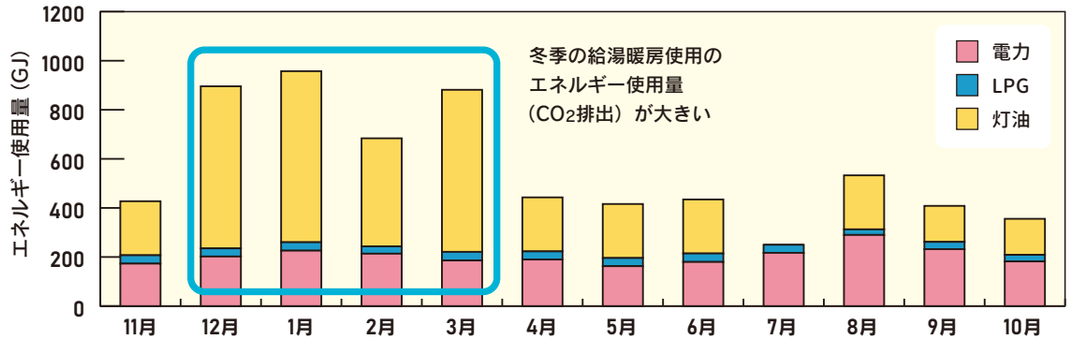
年間エネルギー使用状況 172.50kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容		エネルギー種別	エネルギー削減効果 削減金額〈千円/年〉	原油換算〈kL/年〉	CO_2削減量〈t-CO_2/年〉
①		ボイラの燃焼空気比調整	灯油	282	2.49	6.53
②	運用管理等の改善	ボイラ暖房及び床暖の設定温度低減	灯油	861	7.57	19.92
③		トイレ凍結防止ヒータの設定温度緩和	電力	54	0.51	0.94
④	費用・投資が伴う提案	浄化槽曝気ブロワのタイマー制御	電力	180	1.69	3.13
⑤		デマンド監視装置の導入	電力	169	—	—
⑥		ポンプのインバータ制御	電力	242	2.27	4.20
⑦		温水配管及び給湯系の保温	灯油	91	0.80	2.10
⑧		変圧器の更新	電力	85	0.80	1.47
⑨		照明のLED化	電力	126	1.18	2.19
合計				2,090	17.31	40.48

月別電力・燃料合計使用量推移



提案②の詳細

■現状

・施設内の冬期の暖房は、温水循環によるセントラル方式と床暖房が併用されている

・ボイラの設定温度は80℃と高く、床暖房は共用部などの表面温度は40℃程度ある

■省エネ施策

・ボイラの設定温度を75～70℃に下げ、床暖房も一般的な表面温度の30～32℃に下げる

■CO_2削減効果

・ボイラ暖房及び床暖の設定温度低減 → 19.92t-CO_2/年削減

合計 19.92 t-CO_2/年削減

脱炭素診断結果から

所感

この度、県内事業者12社を脱炭素診断させていただきました。製造業が4件、その他8件です。12社合計の省エネ提案件数は59件になり、原油換算エネルギー削減量は40.41kL、CO_2排出削減量では95.74tになります。原油換算削減率、つまり、省エネ率では6.4%になります。

合計の原油換算削減量（40.41kL）をさらに分析してみますと、費用のかからない運用管理提案が18件（21.93kL）、費用はかかるが5年未満で投資回収のできる提案が10件（7.13kL）、投資回収5年以上の提案が31件（11.35kL）となります。この投資区分別で件数及び削減量を表にすると以下のようになります。

	件数（件）	削減量（kL）
運用管理提案	18（31%）	21.93（54%）
投資回収5年未満	10（17%）	7.13（18%）
投資回収5年以上	31（52%）	11.35（28%）
合　計	59	40.41

「省エネにはお金がかかる、あるいは我慢を強いる」といった考え方が相変わらず蔓延していますが、そうではなく、お金をかけずとも工夫次第で出来る脱炭素経営の取組はたくさん存在するということをこの度の診断は表しています。

有限会社エスコ

脱炭素インフォメーションあきたOffice

設立準備委員会

- 秋田市環境部環境総務課
- 秋田市地球温暖化防止活動推進員
- 秋田商工会議所
- 株式会社北都銀行
  営業推進部地方創生室
- 地球力・ミッショナリー@Akita
- 東北環境パートナーシップオフィス（EPO東北）
- 環境省
  東北地方環境事務所 脱炭素創生室
- 有限会社エスコ

（50音順）

お問い合わせ先

あきた市地球温暖化防止活動推進センター
（一般社団法人 あきた地球環境会議）

TEL/FAX 018-874-8548
e-mail: info_ceea@ceeakita.org
HP：http://www.ceeakita.org

CEEA 脱炭素インフォメーション　検索

脱炭素
インフォメーション
あきたOffice

脱炭素診断 x 脱炭素経営支援

あきた市地球温暖化防止活動推進センター
（一般社団法人 あきた地球環境会議）

TEL/FAX：018-874-8548　E-mail：info_ceea@ceeakita.org

環境省 令和4年度 地域における地球温暖化防止活動促進事業